

2023年12月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 松本 悟

ウガンダ国カルマ橋建設計画
(協力準備調査(無償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2023年10月27日(金) 13:55～19:42
- ・場所：JICA 本部（2階229会議室）及びオンライン
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、鋤柄委員、二宮委員、長谷川委員、松本委員
- ・議題：ウガンダ国カルマ橋建設計画（協力準備調査（無償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】ウガンダ国カルマ橋建設計画（協力準備調査（無償））SC案
 - 2) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第153回委員会）

- ・日時：2023年12月8日(金) 14:01～17:09
- ・場所：JICA 本部（2階227会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. マーチソフウォールズ国立公園（1952年に国立公園化）及びカルマ野生生物保護区（1964年設立）内での現カルマ橋建設（1964年）の是非についての過去の検討の経緯の有無及び詳細を確認し、DFRに記載すること。

代替案検討

2. 事業を実施しない場合での影響評価では、負の影響項目として検討されている6項目について可能な範囲で定量化を行い、その結果をDFRに記載すること。
3. 保護区外の事業実施が難しい理由については、以下の点を含めて明確にDFRに記載すること。
 - ① 道路延長の評価
 - ② 住民移転をできる限り避けるルート設定
 - ③ ルート選定に関する、カルマ村地域の人々との合意
 - ④ 保護区外の場合は長期間の建設が予定されているが、ルートの変更等を行い期間を短くできる可能性
 - ⑤ 住民へのインタビューを通じて、生息数が少ない種に与える影響の見積もりを含めた動植物への影響の再検討
4. 保護区内外の事業代替案の妥当性の検討では、スコーピングマトリクスも参考にし、比較項目を統一し、保護区外の検討でも保護区内と同様の比較表を作って検討した結果をDFRに記載すること。
5. 保護区を含む本事業の代替案比較においてEIRRを適用するにあたっては、貨幣価値化できない要素が（特に自然環境分野で）多いため、経済性の数値指標としてはあくまで参考として扱うこと。もしEIRRを適用する際は、貨幣価値化できなかった外部効果も定性的に調査し、その結果をDFRに記載すること。またEIRR結果は複数の割引率で比較分析する等、可能な限り客観性を高めDFRに記載すること。

環境配慮

6. 実施機関（UNRA）を通じて、UWA（Uganda Wildlife Authority）の能力強化なども含めた、数年間にわたる当該自然保護区の保護管理能力の向上に向けたプログラムの策定を働きかけ、その結果をDFRに記載すること。

社会配慮

7. 「ベースライン調査の分析方法」の「貧困層」「少数民族・先住民族」「生計手段」の調査項目及び方法を、カルマ村以外の漁業者などが影響を受ける可能性を考慮した書き方に修正して調査を実施し、その結果をDFRに記載すること。

以上